

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長：中本高夫 編集責任者：南 順三 印刷所：東京印刷(株)

理事 (委員長)



理事
板垣慶太会員

理事
堀江則夫会員

理事
河津慎二会員

理事
花園直樹会員

理事
中田耕治会員

理事
村岡誠一会員



理事
門脇幸一会員



県出向理事
植田寿雄会員



監事
夏山裕一会員

監事
湯原俊二会員

監事



監事
三嶋雄司会員



県出向理事
渡辺一徳会員

県出向監事
釜田公文会員

県出向理事
牧田継夫会員

31期県出向役員推薦決定！

31期新役員決定！

いよいよ次年度役員が全員揃いました。
30年の歴史を背負い、より一層盛り上げて
くれることでしょう。

今月のワンショット

次年度活動に期待を込め
て、役員の写真を取りませ
ていただきました。



5月例会報告



平成17年5月16日(月)米子全日空ホテルにおいて、政治行政委員会による5月例会がおこなわれた。会長挨拶では、中本会長が、「企業の本当のモラル」自分たちさえ儲かれば良いなどと言う考えを持つべきではないし、相手があって自分がある事を忘れないように。また、我々の会は会員全てが主人公であることを忘れてはならない。と熱く語られた。その後、新たに2名の新入会員が誕生した。今月は臨時総会があり、次年度新役員が満場一致で承認され、次年度の大枠が決まった。また、映像機能のある携帯電話を使って東部の平野県会長が県の30周年記念事業への協力を依頼され、県事業の大切さを感じた。

委員長タイムでは人づくり委員会の渡辺委員長が、委員会・例会のあり方等を納得するまで考え、一年間委員会を運営したことを切々と語られた。後半のパネルディスカッションでは未知なる時代へ観光都市「米子」への意向と題し、野坂米子市長・新日本海新聞社取締役の佐伯氏・または代表取締役社長の橋本氏の3名に加え、政治行政委員会から森協会員がコーディネーターを勤め、始めから核心を突く議論が繰り広げられた。内容は、米子が発展するには商工業を強化するより、観光



事業に走った方が速く成し遂げられるであろう。しかし、米子にはシンボルが無い！それを発掘するには米子の歴史を深く掘り下げて云われのあるものを表面化し、米子市民全員で自慢できる米子の歴史をPRしていることが大切である。また、我々中央会がもっと引っ張って観光や市民のモラルに力を入れて欲しい。等、白熱したディスカッションであった。

そこで我々は何をしなければいけないでしょうか？本当に観光都市にするのであれば、米子の歴史をもっと勉強し、市民に大きく公表することが必要。そして自慢の出来る米子市にするには我々は来年度以降もこの問題を考え、実行していくことが重要である。

トライアスロン活動報告

全日本トライアスロン皆生大会

～ボランティア部～「進化するメディア戦略」

毎年大会で必要とされるボランティアの数は約3千人。その内我々ボランティア部の所管が約1,800人。決して充足している状況ではなく、また参加者の高齢化傾向もあります。そこでボランティア部ではここ数年、メディア戦略に力を入れ、ボランティア広報を充実に行っています。昨年より今年、そして来年以降はもっと多くの方々(特に若い人)がこの地元皆生のトライアスロンを身近に感じ応援していただければと、部員一同知恵と体力と気力をしぼり頑張っております。引き続き皆様のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

【MISSION 1 : テレビコマーシャル放映】

延べ約150名の方々によるテレビコマーシャル。(6月初旬から約1ヶ月間、中海テレビ放送)

【MISSION 2 : パブリシティ広告】

ローカル新聞各紙・市報等での広報、ラジオ・テレビ出演(ローカル各局)。

【MISSION 3 : ボランティア募集チラシ配布】

1万部のチラシを作成、街頭・公共施設にて配布。

【MISSION 4 : 大会生中継】

部員と一般ボランティアも放送クルーとして参加し当日の様相を生中継(中海テレビ放送)。

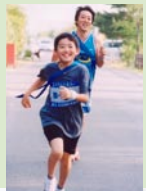
24時間リレーマラソンIN米子参加

去る、5月14日正午のスタートから15日正午のゴールまで延々24時間走り続ける24時間リレーマラソンIN米子大会が、日吉津村の教育キャンプ場で行われた。当会では本年が2年目の参加となった。

主力メンバーは各スポーツ愛好会(野球、バスケ、サッカー、ゴルフ)およびOB、現役から走力自慢の方々を招集しての参加となり、延べ30人のメンバーが一度も止まることなく24時間たすきを繋いでいった。

この大会に参加する意義は24時間たすきを繋ぐ絆(友愛・団結)であり、さらに24時間キャンプしながら大いに飲み、大いに食べ、大いに語り親交を深めることであると思う。

さわやかな春風を感じながら、普段、仕事場でも家庭でも感じる事が無い、爽快な感動を感じた大会であった。



5月度委員会報告

総務委員会

平成17年5月6日(金) 於: パーンズ ゴイ 出席者/12名
議題/女性会員拡大考察アンケート、総会・卒会式について

メディア・コミュニケーション委員会

平成17年5月10日(火) 於: 大連 出席者/14名
議題/ハンサム、ホームページ、6月担当例会、30周年記念誌、2004年度委員会報告・卒会寄稿文集、2005年度会員名簿について

人づくり委員会

平成17年5月9日(月) 於: 大連 出席者/14名
議題/第二回新入会員オリエンテーション内容検討

まちづくり委員会

平成17年5月10日(火) 於: ホールサムインがいけ 出席者/9名
議題/6月例会委員会発表について

経営委員会

平成17年5月10日(火) 於: インサイト 出席者/12名
議題/会員企業紹介CD作成作業

政治行政委員会

平成17年5月10日(火) 於: 岩崎館 出席者/11名
議題/5月担当例会について

国際交流委員会

平成17年5月12日(木) 於: 手打ちそば「昌庵」 出席者/11名
議題/中国大連市経済交流研修報告について

エコチャレンジ2004委員会

平成17年5月9日(月) 於: 山陰建販 出席者/13名
議題/EM菌団子の作成
5/15住吉小学校PTA(小学生も)と中海にEM菌団子投げ込みについて

会員拡大特別委員会

平成17年5月24日(火) 於: ホテルサンルート米子 出席者/8名
議題/会員拡大情報を来期に引き継ぐまとめについて

※役員会報告・連絡事項、会員拡大の件は各委員会とも行われています。
※詳細については各委員長までご参照ください。



事又現在・将来の中央会について…話題は多岐にわたり、会員同士大いに盛り上がり親睦を深めた。

更に各地区の次年度会長の決意表明も行われ、次年度への抱負・思いを約10分間熱く熱く語られた。話は尽きることなく時間は経過し、中締めとして中本会長が総評を行い閉会、親睦事業の成功の余韻を残しそれぞれの帰路についた。

親睦事業とはいえ、皆プレーは“真剣”そのもの。懇親会場で熱く語る、これも“真剣”そのもの。何事にも取り組むからには“真剣”このパワーが青年中央会を支えていると言っても過言ではないと思えるとても有意義な事業であった。

県青中親睦会開催！！

東部・中部・西部混合チーム対抗ドッジボール大会

5月22日(日)鳥取県立鳥取産業体育館において、平成16年度鳥取県青年中央会親睦事業として「東部・中部・西部混合チーム対抗ドッジボール大会」が開催された。

平野県会長挨拶・準備体操後、ゲームスタート。A～Fチームに分かれ、1ゲーム5分間の総当りリーグ戦。ルールは「利き腕を使わない」という変則ルール(利き腕では危険?)で行われた。徐々に体も温まり、普段仕事に向かう厳しい表情も一変!?童心に返り無邪気にボールを追いかけて白熱した展開となった。チームによっては作戦を立て、勝利への執念をうかがわせた。さすが青年中央会、即席チームでも息はピッタリであった。

ドッジボール大会終了後、懇親会場である対翠閣にて入浴・汗を流し、平野県会長の乾杯にて懇親会が始まった。ドッジボール大会の成績発表並びに表彰式も行われ、各チームの健闘をお互いに称えあった。

歓談中各テーブルでは東部・中部・西部の垣根を越え、午前中のプレー、お互いの仕事



第2回 新入会員オリエンテーション

5月27日(金)米子食品会館プラザホールにおいて、人づくり委員会による「第2回 新入会員オリエンテーション」が開催された。創立30周年の大きな節目を迎えた我が西部青年中央会の歴史や組織を新入会員に正しく理解してもらい、今後の活動に役立ててもらおうことが目的である。

この日は平成16年12月から5月までに入会した会員9名が参加した。中本会長の挨拶の後、西部青年中央会の組織、活動内容、年間事業など、30周年記念DVDの上映も交えて、説明が行われた。**親会、OB会、青経連、周年事業**など、次々と出てくる組織や事業の説明に対して、新入会員は戸惑いの表情を見せながらも、一生懸命、「すべて」を理解しようと努力していた。質疑応答では新入会員から「内容が盛りだくさんで説明と資料を追いかけるのに精一杯だった。」との声もあがった。

会の最後、浜田直前会長は「当会の発足以来の精神、何事も恐れないチャレンジ精神で活動して欲しい」と締めくくった。この日、新入会員は改めて「若手経済人」としての自覚が芽生えたようだった。



元気玉中海投げ込み(EM菌団子)

5月15日(日)エコチャレンジ2004委員会によるEM団子作りが米子市立住吉小学校で行われた。

エコチャレンジ委員会が年間を通して勉強してきたEM菌の集大成として元気玉(EM団子)を作り、NHKと中海テレビさんの取材も入れ、それを水質浄化へ向けて中海に投げ込むというものだ。

朝から小学生10数名と保護者のみなさんに参加していただき、団子作りが始まった。0.5mlほどの容器に小型の鍬を使って田んぼから取ってきた土と発酵液を混ぜるという作業に小学生達は興味津々! 鍬を使うという事が珍しかったのか我こそとばかりに長蛇の列が出来た。そのため、みんなが5～6回づつ順番に混ぜ合わせた。

さて次は、よく混ぜ合わせたものを団子状に丸めるという作業だ。ビニール製の手袋を渡され、よほど夢中になって丸めたのだろうか、おにぎりサイズに団子を作るその作業中に子供たちの話し声はなかった。一つダメ出しをするならば、ビニール製の手袋が大人用で子供が着けると…。団子を作りながら手袋を直すという光景が印象的であった。中には手袋をとって丸める子も。まあ泥だらけになってしまう事も大事である。

団子は菌が繁殖するまでに日数がかかるため、委員会のみなさんがあらかじめ作っておいた団子が登場。「こうなるんだよ～」見るからに全面をカビで覆われたような団子を見るなり「ウォー!!」「ワー!!」と一斉に歓声が沸き上がった。

そしていよいよ中海に投下だ。みなさんに中海まで移動していただき、スタンバイOK!

最初に見せたときは触れようとしなかった元気玉をためらいなく掴み、「中海きれいな～れ～」と言う掛け声と同時に一斉投下。元気玉を元気よく投げる子供達の姿、無邪気な笑顔にはみなさん心が癒されたと思う。たくさんあった元気玉はあっという間になくなってしまいました。投下後のインタビューでカメラを向けられていた子供達の顔は緊張のせいか引きつっていたが…。

中本会長の挨拶にもありましたが、「たった1回の事ではキレイにはなりません、これを継続していく事、またそういう気持ちを持ち続けていく事が大事です。」と。環境を配慮するという事を子供達に教える事ができた1日であった。



去

第30期の活動も残すところ1ヶ月を切ってしまいました。7月1日をもって次年度へパトタッチということになります。思い起こせば、昨年の7月の記念式典がついこの前のような気がしませんか？私感ですが、委員会活動も波にのってきたぞ！という時に、もうゴールが見えてきたような気がします。各委員会においても、それぞれの指針による目標を立てて活動を行ってきたわけですが、内容によっては一年間で結果を出すことは難しいことかもしれません。

会員間では、多年度に渡る委員会活動があっても良いのではないかという話題が上がったりします。事あるごとに実施されてきた会員アンケートでも多くの方が継続的な事業が必要だと思っている結果が出ています。そのアンケート結果は当会のホームページ上にも掲載され会員であれば誰でも見ることが出来ます。

長期的な展望において中央会として取り組み、その経過を報告し大きな結果に結びつける。そのヒントはもしかしたら色々なところにあるように思います。例えば、本年度エコチャレンジ2004委員会が取り組んできたEM菌のことにしても、会内だけではなく外部の方たちと一緒に、この地域のために貢献できるひとつの材料かもしれません。EM菌団子を中海に投げたことから始まったものが多くの方たちに広がり、それによって中海で泳げるようになったなら・・・と考えると、もしかして凄いことなのかも思ったりします。

過去に行われてきた事業などを少しですがこのコーナーで紹介してきました。捉え方は人それぞれでしょうが、我々は過去を継承して様々な事に着目し、何事にも恐れずチャレンジするというのを忘れてはならないと思います。

来

時間というもの、大河のごとくゆったりとしかし確実に流れている。波打ってはいてもよく眼を凝らしてみないと、それはあたかも止まっているように見える。現在〈いま〉は、あくまで一点に過ぎぬが、留まることなく押し寄せる未来と、容赦なく離れていく過去との唯一の接点なのである。

時間の経過は、人間にとってときに残酷で、ときに優しい。その流れに身を任せれば楽であると知ってはいても、それに抗おうとする者は後を絶たない。最中（さなか）には充実感があるかも知れぬが、行き着く岸は、『後悔』以外に在る筈も無い。

現在〈いま〉は唯一、過去と未来の二つが見える。過去は唯一、我々に語りかける。未来は唯一、【変わる】事が出来る。我々に出来るのは過去に倣い、現在〈いま〉をどう生きるかであるが、それは取りも直さず、より良い未来を創り上げるためなのである。

永い歴史に支えられ確かな伝統を築いてきた、我が青年中央会。労を惜みず登ったその高みから、将来が明確に見通せるに違いない。この世界の大きな時の流れと共に、その流れを止めることがあっては決してならない。

現

西部青年中央会に入会して一年半が過ぎ、色々振り返って見ると、入会当初から今までの自分の人生の中で経験した事無いこと、この会に入会していなければ経験出来なかった事を経験させてもらった。今思えば入会当初、「なんでこげな事をこの年になってまでせんといけんのだあ」と思い、最初はいやいやしていた面があったが、「折角入会したんだから、ビジネスの面だけではなく、楽しんで活動に参加したら面白くなって来るよ。」と言われ「そうだな～いやいやしても面白くないし、自分も楽しくない。」と思い、この会の活動・行事等楽しみながらやってみようという気持ちを切り替えて行動してみたら、色々な活動が楽しくなってきた。これからも楽しみながら、そして様々な行事に参加して自分をもっと磨いていこうと思う。

コピーをして名簿にお貼り下さい

(経営)



わたべ のりあき

(有)ダイナ・アート 代表取締役
一般土木測量設計
〒683-0854 米子市彦名町7107
TEL 24-2377 FAX 24-2528

H 17.05 入会
(推薦者) 門脇(幸)
牧田(継)

〈コメント〉

平成17年度5月期、41歳を目前とした最後のチャンスに「自己研鑽」を目的に入会いたしました。

入会承認以降、5月委員会・5月例会・新入会員オリエンテーションと、立続けに出席させていただき、各会の運営に当たられた諸先輩方の行動力、表現力に早くも圧倒されるとともに「自分に足りないもの」を再認識する機会となりました。

本会の活動に参加することにより「足りないもの」を補填させていただきながら、少しでも本会の、また社会のお役に立てるよう努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(総務)



わたべ こうじ

C・S・P 代表
土地区画整理設計
〒683-0854 米子市彦名町1460-4
TEL 30-0034 FAX 30-0034

H 17.05 入会
(推薦者) 増井(幸)
楠村(清)

〈コメント〉

はじめまして、この五月から中央会に入会させていただきました。私は新潟県の出身で、この米子には以前勤めていた会社の転勤で平成元年九月に参りました。米子に住んで約十六年たったのですが、仕事の関係の方々との付き合いだけであまり同年代の人との出会いがありませんでした。中央会に入会しようと思った動機のひとつが出会いを求めることからです。

この入会を機に、これからの自分の進むべき方向を改めて見つめ直したいと考えています。どうぞこれからよろしく願い致します。

6月役員会報告

6月定例役員会が平成17年6月1日(水)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・6月例会開催の件
- ・7月通常総会開催の件
- ・その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

6月例会案内

と き：平成17年6月15日(水) 18:30～
と ころ：米子コンベンションセンター“BIG SHIP”〈小ホール〉
内 容：30期委員会報告、31期年度方針発表、31期理事抱負
担 当：メディアコミュニケーション委員会

おめでとうございます

御結婚

松本誠二会員 5月7日挙式

門脇幸二会員 5月14日挙式

御結婚されました。おめでとうございます!!

開業

茅野康洋会員

有限会社 家楽

米子市道笑町3丁目53-4

TEL 0859-38-0545 FAX

0859-38-0546

開業されました。おめでとうございます!!